

幼稚園の実情を踏まえた多様な動きを  
経験できる遊びの工夫を行った実践例  
(投力を伸ばす遊びを通して)

学校名 和歌山市立山口幼稚園 (和歌山県)

全校幼児数 47名 (男児22名 女児25名)  
(本事例に係る問合せ先)

電話番号 073(461)0084

メールアドレス kg.yamaguchi@wakayama-wky.ed.jp

1 研究のねらい

進んで体を動かす子供を育てる。 ～子供の実態に即した遊び～

2 研究の概要

文部科学省が提唱している6項目の体力測定を行い、和歌山市3園(湊・宮前・山口)の幼児測定の結果、走・投・跳に分け、新たに『幼児期の運動指針』に示された内容を基に実践プログラムを作成し、園の取組を全13園に普及する。

## ○実践プログラムの紹介

□ 地域や幼稚園等の実情を踏まえた特色ある遊びの例

「走る」「跳ぶ」「投げる」の基本的な体力測定を実施し、調査結果、各園の実態に応じ様々な運動遊びを通じた環境の工夫に取り組む。(投げる)

※「集まれやまぐちっ子」毎朝15分間行う運動遊び

- ・多様な動きが含まれる遊び。 ホッピング・ケンパ・ぼっくり・鉄棒・ボール等をつかって
- ・少し頑張ることで乗り越えられるような場の工夫をする。
- ・降園後も楽しめるように用具はテラスに置いておく。(保護者に、できたところをみてもらう)

※ボールに触れる環境の工夫

※毎週行う雑巾がけ

※親子遊びや敬老会などの行事の中に体を動かす遊びを取り入れる。

※体育館遊び

※紙鉄砲や紙飛行機とばし

※リトミック



## ○幼児の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

- 1 教員数が限られているので、その範囲で見とることができる環境での遊び
- 2 子供一人一人の発達段階や健康状態を理解した上での、教師の支援や環境構成
- 3 用具や遊具を使用する際、危険でないかの確認と点検
- 4 子供がのびのび、楽しくするための最小限のルールづくり

## ○成果の意義と今後の課題

- 1 体を動かす時間を意識して作ったことで、運動することの楽しさを感じ、意欲的に活動する子供が増えた。
- 2 今年度だけでは十分な成果は得られなかったため、来年度も保護者を巻き込み、園と家庭が連携して、子供たちが進んで体を動かせるような取り組みをしていきたい。

## ○ 研究内容

### ドッチボール

投げ方が上手になりました。



### 敬老の日の集い

行事の中にもボール遊びを取り入れる。



### やってみようボール投げ

4, 5歳児だけでなく3歳児も挑戦できるように



2種類の高さの投げる場所を作る。

### 玉入れ遊び

ボールに触れる機会を作る

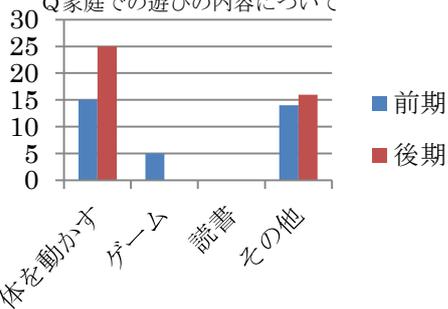


いつでも楽しめるように  
玄関前にかごを置く。

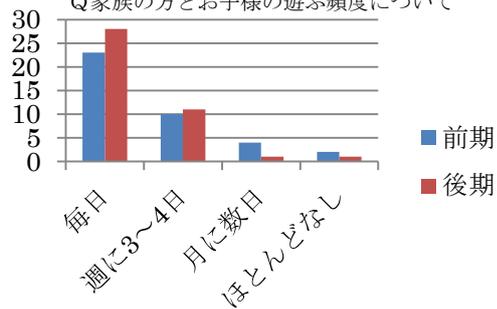
### アンケート結果から

家庭での運動に対する意識の変化について考える。

Q家庭での遊びの内容について



Q家族の方とお子様の遊ぶ頻度について



### 来年度に向けて

公立幼稚園の体力向上に向けての取り組みを考える。

- ・子供たちにどのような遊びを経験させたいのかを考えた上で、年間計画を作成する。
- ・「集まれやまぐちっ子」は継続して行い、子供たちが意欲的に体を動かす事ができるような環境構成の見直しをしていく。
- ・公立幼稚園の子供たちの体力向上に向けて、園での取り組みを発信できるようにしていきたい。